



レファレンス通信

No. 25

2015.8

石川県立図書館
利用サービスグループ
〒920-0964
金沢市本多町 3-2-15

加賀藩の歴史入門

加賀藩の歴史については様々な研究がなされ、本もたくさんでています。その中から、これから加賀藩の歴史に触れてみようという方におすすめの資料を紹介します。

「加賀百万石」の百万石ってどういう意味？

「石」は尺貫法の体積の単位で、1石=10斗=100升=1000合=約1800です。

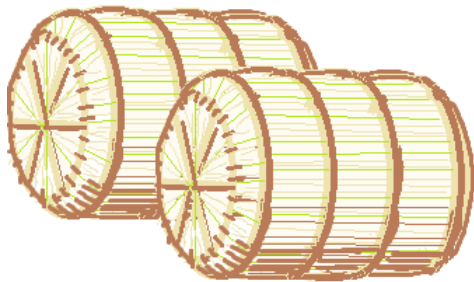
大名がどのくらい領地をもっているかは、面積ではなくそこからとれる玄米の量（石高(こくだか)）であらわされました。この石高が加賀藩の場合およそ102万石であったことから、俗に「加賀百万石」と言われたのです。大名としての格や義務、幕府における役職なども石高によって決まりましたが、加賀藩の石高は徳川幕府を別にすれば全国の大名の中で最も大きなものでした。これに次ぐ鹿児島島の島津家は77万石、仙台の伊達家は62万石とされています。（『丸善単位の辞典』p513より、明治1~2年の石高）

大名の石高は江戸時代を通じて一定だったわけではなく、さまざまな事情で増減することがありました。

『藩史大事典』（雄山閣出版1989.7 210.5/435）で各藩の時代ごとの石高を知ることができます。

また、幕府に認められた加賀藩の石高は102万石でしたが、実際には135万石ほどの収穫があったとされています。公称の「102万石」を表高(おもてだか)、実際の「135万石」を内高(うちだか)といいます。

なお、米1石はだいたい1人が1年に食べる量で、金に換算すると約1両になりました。米の単位には他に「俵(ひょう)」がありますが加賀藩では1俵=5斗でしたので、1石は2俵でした。（明治以降は1俵=4斗）



(注：文中、石高の値に関して万石未満は切捨てています。)

(参考文献：『書府太郎』（北國新聞社2004.11 K030/1003）

『国史大辞典』（吉川弘文館1985.2 R210.03/95）

『丸善単位の辞典』（丸善2002.3 R609/10009）

『武士の家計簿』（新潮社2003.4 K209.5/1018）

↑5斗俵で米1俵の重さはおおよそ75kg、1石（2俵）で約150kgになります。

こんなことを調べています～事例紹介

Q. 加賀藩の武士はみな前田の殿様の家来だったのか。

A. 明治2年の調べによると加賀藩には7500人以上の「陪臣(ばいしん)」がいたとされています。「陪臣」とは藩主の直接の家来ではなく、藩主の家来である「直臣(じきしん)」の藩士に仕える、藩主からは家来の家来にあたる武士のことです。

直臣のなかでも有力な、加賀八家のひとつに挙げられる本多家などは、小さな藩に匹敵する規模の家来を陪臣として抱えていました。石川県立図書館のある「本多町」は、本多家の陪臣たちの住む下屋敷があったことからその名前がついています。

(参考文献：『金沢市史 通史編2』（金沢市2005.12 K222/125/3-2） 『加賀藩士』（石川県立歴史博物館2000.4 K069/25/00-1）

『金沢市歴史のまちしるべ案内』（金沢市2013.11 K292.2/1156）

〈加賀藩の歴史全般の資料〉

- ①『**こども金沢市史 第2版**』(金沢市 2012.10 K222/1048) 文章を平易にし、少しずつ読める構成にするなど、こども向けに工夫されているが、内容は大人にも興味深い。加賀藩に関する項目はp50～182。
- ②『**金沢市史 通史編 2**』(金沢市 2005.12 K222/125/3-2) 金沢市史のうち藩政期についての巻。900頁以上あるので通読するのは大変だが、基本的な事項がまとまっており、目次を活用して調べ物をするのによい。
- ③『**書府太郎**』(北國新聞社 2004.11 K030/1003) 石川県に関する事柄を扱う百科事典。人名や歴史事項等の概要をとりあえず把握するのに便利。人物・歴史の項目は上巻にあるが、下巻の巻末付録に藩主一覧あり。
- ④『**加越能近世史研究必携 第2版**』(北國新聞社 2011.7 K209.5/1039) 歴代の藩主や加賀八家の情報、藩の機構図、奉行や代官の名前、用語集など、加賀藩を調査・研究する際に参照したい情報が載っている。

〈歴代藩主とその時代に関する資料〉

- ⑤『**利家・利長・利常**』(北國新聞社 2002.3 K288.5/1044) 織豊時代を生きた初代前田利家、徳川の時代への変化に対応した2代前田利長、幕末まで続いていく加賀藩の基礎を作った3代前田利常の人物像と事績。
- ⑥『**前田綱紀**』(吉川弘文館 1986.11 K288.5/70) 全国でも最も長く藩主の座にあり、改作法の実施や学問の振興など多くの治績により名君として知られる5代藩主前田綱紀(つなのり)の人物と業績を紹介。
- ⑦『**寺島蔵人と加賀藩政**』(桂書房 2003.9 K289/1123) 12代藩主斉広(なりなが)の時代、改革者として知られた寺島蔵人を通して加賀藩政の実態を明らかにする。
- ⑧『**前田慶寧と幕末維新**』(北國新聞社 2007.12 K288.5/1069) 加賀藩最後の藩主前田慶寧(よしやす)の人物像と、幕末動乱における加賀藩の動向。

〈絵図や地図、実物に親しむための資料〉

- ⑨『**よみがえる金沢城 1**』(石川県教育委員会 2006.3 K391/1026/1) 時代ごとの金沢城の変遷を軸に、それに関わる出来事や人物のエピソードなどを紹介。絵図や肖像画、カラーの図版が豊富。
- ⑩『**肖像画にみる加賀藩の人々**』(石川県立歴史博物館 2009.4 K069/25/009-1) 加賀藩の人物の肖像画を集めた石川県立歴史博物館の展示図録。前田家当主や家臣、奥方の他、学者や僧侶、町人、画家、俳人などいろいろな人物の肖像画が掲載されている。
- ⑪『**金沢・北陸の城下町**』(平凡社 1995.8 K290.3/327) 太陽コレクションシリーズの中の1冊。古地図と平成の町並みの比較を中心に、様々な視覚的史料を掲載。藩政期の町の様子を知ることができる。
- ⑫『**石川県の歴史散歩**』(山川出版社 2010.7 K290.9/1154) 歴史の舞台を実際に訪ね歩くためのガイドブック。場所ごとに見所やそこにまつわるエピソードなどが紹介されている。
- ⑬『**加賀藩士**』(石川県立歴史博物館 2000.4 K069/25/00-1) 石川県立歴史博物館の展示図録。藩士の肖像や書状、武具、絵図なども魅力的だが、「総合解説」として加賀藩の制度や武士の生活、当時の科学技術に関する説明がコンパクトに収められている他、巻末には人物紹介もあり、手軽に詳しく知ることができる。

〈テーマごとの研究〉

- ⑭『**拝見・武士の家計簿**』(日本放送出版協会 2007.8 K209.5/1028) NHK 教育テレビのテキスト。家計簿をはじめとする古文書から幕末前後の武士の姿を読み解く。
- ⑮『**参勤交代道中記**』(平凡社 1993.9 K209.5/74) 『加賀藩史料』(加賀藩の公式記録)から「参勤交代」の実像を明らかにする。何月に旅をしたのか、どのようなルートを通ったのか、行列は何人、どうやって川を渡ったのか、途中の宿場では何を買ったのか、等々の細かい部分が興味深い。
- ⑯『**日本一の大大名と将軍さま**』(グラフ社 2009.9 K288.5/1075) 関ヶ原合戦から5代綱紀の時代に至るまで、様々な史料からエピソードを紹介しつつ徳川幕府と加賀藩の関係について考える。

調べものは調査相談カウンターまで

電話：076-223-9575 F A X：076-222-2531 メール：chosa@pref.ishikawa.lg.jp